

吉祥天像

吉祥天は仏教における多産と幸運、美の神である。ヒンドゥー教の女神であるラクシュミを起源としている。この像は、9世紀から10世紀の中国の貴族の女性が身につけていた衣服や装飾品をまとった姿で表現されている。左手には願いを叶える「如意宝珠」を持っており、幸福、幸運、そして富をもたらすという吉祥天の能力を象徴している。豪華な衣服を身にまとっているこの彫像は、1078年の作であり、ヒノキの一材から彫り出されている。美しい彩色によるきめ細かな細部の表現を特徴とする。平安時代（794～1185年）の仏教美術の中でも最も美しく精緻な作例のひとつとなっている。